

ふるさと じまん

わたしのお気に入り

北海道 小樽市



1,2,3 小樽運河

小樽に来てみれば
いいっしょ

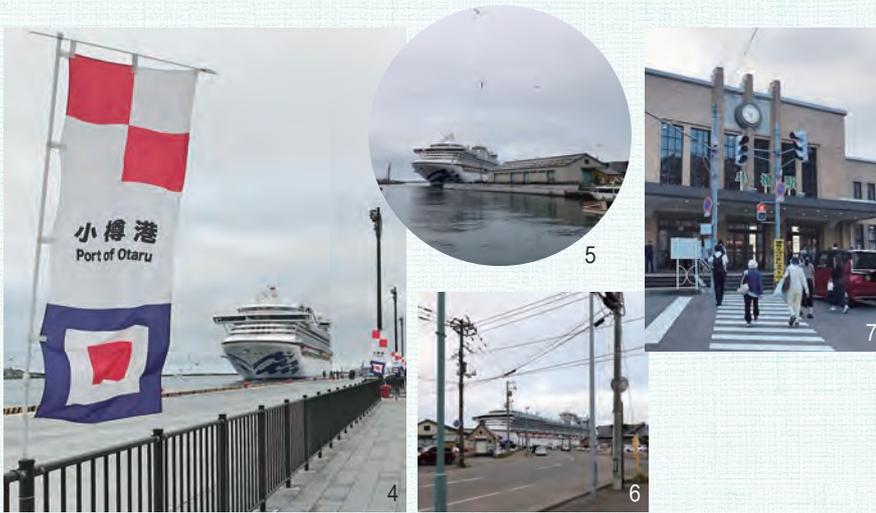
千葉真弓
(平成4年卒)

私の住む小樽市は北海道の南西部に位置する、運河で有名な観光地です。アニメ・漫画・映画で有名な「ゴールデンカムイ」の物語が始まる場所でもあります。ゴールデンカムイに登場する建築物は、今も現存する観光名所となっておりますので、聖地巡礼で訪れる方も多いのではないのでしょうか。今回は市民目線から見たおすすめスポットに焦点をあてて、小樽をご紹介しますと思います。

小樽運河なくして今の観光地小樽はありえませんので、少々説明させていただきます。今から100年ほど前、小樽は北海道と本州の物資輸送の拠点として発展し、多くの船が港近くの倉庫まで物資を運ぶために小樽運河が活躍しました。昭和の半ばに差し掛かり、港には埠頭が建設され、さらに車社会となったことで道路建設のために運河が埋め立てられる計画が持ち上がります。埋め立て賛成派と反対派の折衷案として、半分は道路に半分は運河の保存という形を

とり現在に至るわけです。近年は観光はもちろん、季節ごとにイベントが開催されて市民の憩いの場にもなっております。夏の運河、冬の運河、全く違う風景をスマホのカメラでもとても美しく撮影することができるのは、石造りの倉庫群が引き立て役となっているからでしょうか。

仕事を引退し、悠々自適の生活になったら、船旅をしたいと考えている方もいらっしゃるでしょう。私も豪華クルーズ船による船



4,5,6 小樽港に寄港中のダイヤモンドプリンセス号 7 小樽駅

旅はとても憧れます。小樽港はコロナ前から世界の豪華客船を受け入れてきましたが、コロナ禍で中断され、ここ2～3年でまた積極的な受け入れを再開しております。コロナ前は小樽中心部から2km以上離れた勝納埠頭という発着場でしたが、2024年春、小樽駅からほど近い運河そばの第3埠頭に発着場が移されたことで、クルーズ船誘致に対しての小樽市の意気込みが感じられます。観光に便利なこの第3埠頭はロシアとの水産品や自動車貿易を扱う物流の埠頭でしたが、5万トン級（飛鳥IIクラス）の船しか接岸することができなかったため、10万トンを超えるクルーズ船にも対応できるよう岸壁の整備を行い、現在はダ

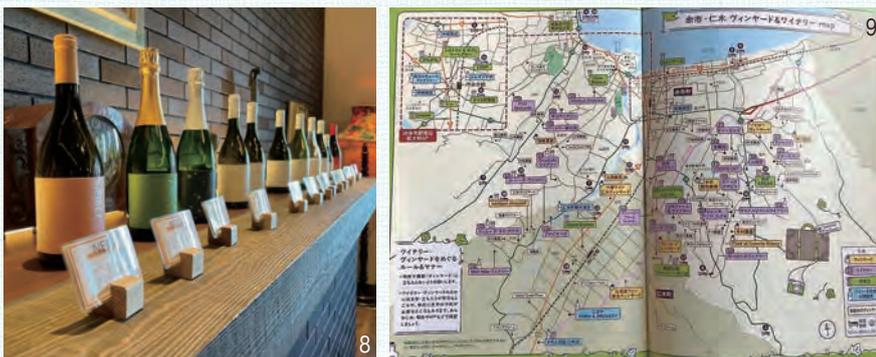
イヤモンドプリンセス号やクイーンエリザベス号も接岸できるようになりました。ほとんどの船が入港8:00／出港17:00のスケジュールとなっているようですので、徒歩で小樽の街に繰り出し、新鮮でコスパの良いお寿司をつまんで、運河周辺をぶらりと散策するのに十分な時間があります。2024年度、クルーズ船は30回ほど小樽港に寄港したようです。

少し足を延ばして、車で40分ほどのところに余市という町があります。ワイン好きの方は聞いたことがある町ではないでしょうか。フランスのブルゴーニュに似た余市・仁木の気候はワインづくりに適した最良のブドウを生み出して

おります。余市町に16軒・仁木町に5軒のワイナリーが、個性豊かで美味しいワインを生産しております。ウェブサイトで販売しているワイナリーもありますが、生産本数が少ないワイナリーは提携酒販店での販売、道内外のレストランで提供しているだけで、地元でもあまり手に入らないワインも数多くあります。札幌のレストランで巡り合ったワインが余市産で、そこからそのワインのファンになってワイナリーを訪問してみるという楽しみもあります。余市は海に面しているため新鮮な海産物もありますし、多くの果樹園や農家もあります。ブランド豚もとてもおいしく食材が豊富なことから、余市産の食材とワインをペアリングしたレストランや宿泊施設を伴ったオーベルジュも人気があります。札幌から小樽周りでニセコへ行く途中の町でもありますので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

同窓会のゴルフ大会も毎回盛況なことから、ゴルフ愛好家の方も多いと思います。小樽には3つのゴルフ場があり、私の住む銭函には私のホームコースでもある小樽カントリー倶楽部があります。過去には日本オープン、サンクロレクラシックが開催され、昨年までは女子ツアーのニトリレディースオープンも開催されておりました。海沿いのコースですが、防風林でセパレートされているためコースから海は見えませんが、海特有の強い風が名物でもあります。平坦ではありますが総距離が長く戦略性の高いコースですの

8 ワイナリー内のショップ 9 余市・仁木ワインマップ





10,11,12 小樽カントリー倶楽部新コース

で、上級者を楽しませてくれるでしょう。夏の選手権シーズンになるとラフを伸ばし始めるので、洋芝特有の粘りと相まってプレーヤー達を苦しめます。北海道がまだ涼しかった数年前はグリーンを短くカットできたので、13フィートは普通でしたが、温暖化の影響？で北海道も真夏日が続いたり、夜間の気温が下がらなかったりすることで、冷涼だった頃のようなガラスのグリーンに仕上げるのもだんだん難しくなっているようです。本州の夏の暑さを避けるため、春から初秋は北海道で生活しながらゴルフを楽しみ、寒

くなったら本州に帰られるという道外のメンバーさんが最近では増えてきました。小樽カントリー倶楽部にはトーナメントコースの新コースと、海沿いにある日本のセントアンドリュースとも呼ばれている旧コースがあります。旧コースは9ホールでティーマークが1つしかありませんし、ボールのところまでカート移動ができますので、老若男女すべての人が楽しめるリンクスコースとなっています。

温暖化は北海道の冬にも影響を及ぼしています。小樽には3つのスキー場がありますが、すべての

スキー場から海を眺めることができるのが小樽市のスキー場の特長ではないでしょうか。最近ではスキー場のオープンが遅くクローズが早まる傾向にあり、雪質も確実に変わってきていてパウダースノーで滑れる日数も減ってきているように思います。さっぽろ雪まつりが終わった2月中旬に開催される「雪あかりの路」という冬季イベントがあります。運河周辺の会場と旧手宮線会場がメイン会場ですが、小樽市内全域が雪あかり会場となり、駅や神社、空き地や

雪あかり 13 運河会場のキャンドル 14 自宅前のスノーキャンドル 15,16 神社の参道





17

18 銭函の海の夕日
18 銭函駅の銭の箱

各々の家の前にスノーキャンドルやろうそくで明かりを灯し、小樽市全体でイベントを盛り上げます。しかし、この2～3年は気温が高くなりすぎて、雪で作ったオブジェやスノーキャンドルが日中に溶けてしまい、夜までに作り直しや手直しが追いつかないという悲しい事態となっています。さっぽろ雪まつりとは規模もスタイルも違いますが、小樽ならではのアットホームで手作り感のある温かなこのイベントが、厳しい冬がもうすぐ終わることを感じさせてくれます。



最後に私が住む小樽市銭函をちょっとだけご紹介して終わりにさせていただきます。

銭函は小樽と札幌のちょうど中間にあり、昔、前浜でニシンが大量に獲れたことにより、漁師の家に銭の箱がたくさんあったことから名づけられたそうです（諸説あり）。その前浜は今では北海道で一番賑わう海水浴場となり、ネットフリックスの「First Love 初恋」のロケ地にもなりました。小樽方面に沈む夕日は何度見ても心癒されます。冬型の気圧配置になるといい波がやって来るそうで、ドライスーツを着たサーファーた

ちが極寒の水温1℃の海の中で波乗りしている様子は、海沿いを走る電車の窓から見る観光客が一瞬アザラシと見間違えるようです。山に囲まれ海もあり、札幌にも近くて千歳空港まで1時間で行ける、便利で自然豊かなこの銭函が私は大好きです。



観光地あるあるですが、地元民より観光客のほうが新しいお店や観光スポットをよく知っていることには驚かされます。小樽を訪れる友人たちのために、美食家の友人のおすすめや口コミなどの情報収集を日々怠らないようにし、素敵なおもてなしができればと思っています。

皆さん、是非小樽に遊びに来てください！ したっけね～（北海道弁）。



19

19 雪の中のサーファー
20 極寒の波乗り

20